
キヤノン株式会社

2020年第1四半期 決算説明会

2020年4月23日

代表取締役副社長 CFO 田中 稔三

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

■ 2020年1Q実績	P 2～5
■ 2020年2Q以降の見通し	P 6
■ セグメント別詳細 (2020年1Q実績)	P 7～14
■ 財務状況	P 15～16
■ サステナビリティへの取り組み	P 17
■ 参考資料	P 18～21

【外部環境】

- 新型コロナウイルスの拡大により世界経済の様相は一変
- 世界経済は大恐慌以来の深刻な危機

【当社業績】

- 工場の操業停止や稼働率低下
- 一部の製品で供給不足が発生
- 経済活動の停滞により、当社製品の販売も大きく影響を受ける

前回公表の1月時点では、米中貿易摩擦の緩和や、英国の合意なきEU離脱の回避、新興国経済の持直しなどにより、今年の世界経済は下振れリスクを抱えながらも総じて上向くものと想定していました。

しかしながら、新型コロナウイルスの世界的な拡散は人々の生活に影を落とし、経済活動にも甚大な影響を及ぼし始めた結果、世界経済の様相は一変しました。IMFが2020年のGDP成長率の見通しを1月時点の3.3%からマイナス3.0%へと大きく引き下げるなど、今年の世界経済は、大恐慌以来の深刻な危機に陥るとみられています。

当社の第1四半期を振り返ると、新型コロナウイルスの影響は、まず中国のオフィス機器やカメラの生産拠点での操業停止となって現れました。次にサプライチェーンの混乱により、日本を含むアジアの工場も稼働率の低下を余儀なくされ、結果として製品の供給不足が発生しました。市場への影響については当初、中国など一部の地域に限定されていましたが、その後感染が欧米その他地域へと拡大すると、世界的な経済活動の停滞となって当社製品の販売も大きな影響を受けました。

2020年全社PL(1Q)

Canon

- 期初は計画に沿って順調な出だしも、新型コロナウイルスの影響を受けて減収減益
- 新規事業全体では増収増益

(億円)	2020年 1Q実績	2019年 1Q実績	対前年
売上高	7,823	8,645	-9.5%
売上総利益 (売上総利益率)	3,587 45.8%	3,904 45.2%	-8.1%
経費	3,258	3,500	
営業利益 (営業利益率)	329 4.2%	404 4.7%	-18.7%
税引前利益	345	461	-25.2%
純利益 (純利益率)	219 2.8%	313 3.6%	-30.0%
USD	108.96	110.31	
EURO	120.11	125.17	

3

年初は計画通り順調に推移していた業績は、2月中旬から一変して下降に転じ、売上は対前年9.5%減の7,823億円、営業利益は18.7%減の329億円、純利益は30.0%減の219億円となりました。

結果的には減収減益となりましたが、減収のうちおよそ60%が新型コロナウイルスの影響によるものであり、営業利益についてはその影響がなければ、約30%の増益であったと想定されます。

減収減益の中でも、商業印刷、ネットワークカメラ、メディカル、産業機器の4つの新規事業の合計は増収増益を達成していますので、当社は基本戦略である新規事業の拡大による事業ポートフォリオの転換に間違いはなく、今後も着実に進めていきます。

2020年 セグメント別PL(1Q) Canon

- オフィスは、経費管理の徹底により増益で着地
- その他のビジネスユニットは減収減益

(億円)		2020年 1Q実績	2019年 1Q実績	対前年
オフィス	売上高	3,976	4,390	-9.4%
	営業利益	459	446	+2.9%
イメージング システム	売上高	1,517	1,763	-13.9%
	営業利益	9	47	-80.6%
メディカル システム	売上高	1,061	1,094	-3.0%
	営業利益	40	67	-40.5%
産業機器 その他	売上高	1,471	1,631	-9.8%
	営業利益	38	58	-34.8%
全社消去	売上高	-202	-233	-
	営業利益	-217	-214	-
連結合計	売上高	7,823	8,645	-9.5%
	営業利益	329	404	-18.7%

※従来、産業機器その他に含めて開示していた一部のビジネスを、オフィスに含めており、前年実績も適及して組替えています。

4

オフィスは、本体の供給不足と営業活動の制限による販売台数減に加え、企業活動の停滞によりプリント需要が減少し、サービス売上も減少しました。そのような中でも、徹底した経費管理を行うことにより、対前年で増益を達成しました。

イメージングシステムでは、インクジェットプリンターの在宅勤務、在宅学習に伴う一時的な特需があったものの、市場縮小が続いているカメラについては、供給不足も重なったことで販売台数が大きく減少し、減収減益となりました。

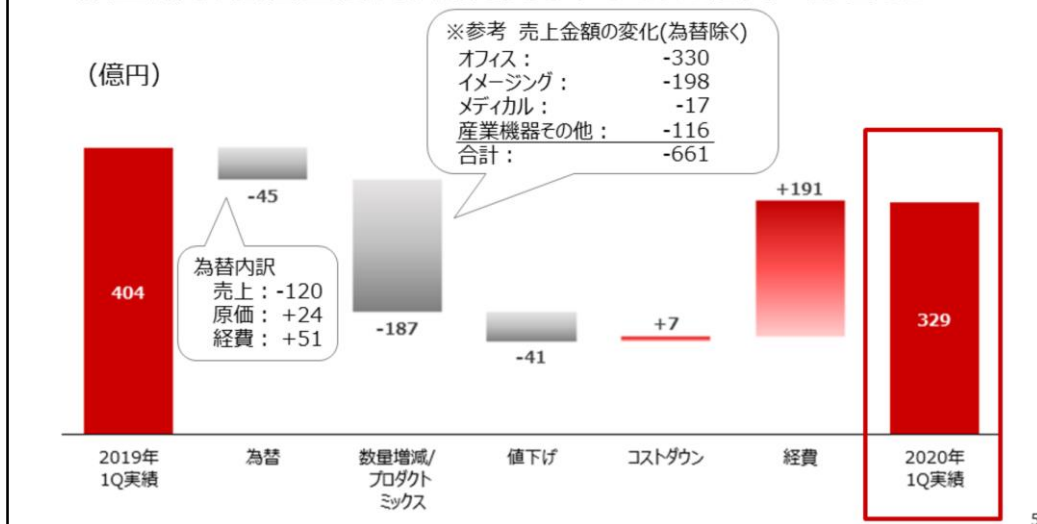
メディカルは、新型コロナウイルスにより、肺炎等の検査に関連した機器の販売は増加しましたが、医療機関への立ち入りが制限されている影響が大きく、大型機器を中心に設置作業が進められず、減収減益となりました。

産業機器その他においては、半導体露光装置は5Gや車載向けなどの販売が計画どおり推移しましたが、フラットパネルディスプレイ露光装置は、顧客先に出向けないことで設置作業が遅れ、大きく販売台数を落としました。工事進行基準で売上を計上している有機EL蒸着装置は、回復してきた需要に対応し生産を着実に進めており、売上を大きく伸ばしています。

営業利益分析(1Q)対前年

Canon

- 数量増減は、オフィス・イメージングは製品供給不足と市況の悪化、産業機器その他は設置作業の延期により減少
- 数量減を、広告宣伝費や開発費を中心とした経費の管理でカバー



「為替」は、対ドル・ユーロともに円高が進み、売上利益でマイナス影響を受けました。

「数量増減」は、生産拠点の稼働率低下による製品の供給不足に加え、市況の悪化によりオフィス機器やカメラなどの売上が減少しました。産業機器は、顧客先での設置作業が延期となった影響を受けました。

「値下げ」は、収益性を重視してカメラを中心に抑制したことにより、昨年の107億円に対し、41億円になりました。

「経費」は、不要不急の経費の削減や、広告宣伝費や開発費を中心に徹底した管理を行ったことにより大きく改善しました。

【外部環境】

- 各国政府や金融当局が素早く施策を打つも、経済活動の停滞により、景気後退は深刻に
- 新型コロナウイルスの収束時期の見通しが立たない

【当社の見通し】

- 2Qは、1Qを超える大きな落ち込み
- 新型コロナウイルス収束は見通せず、業績予想は困難
→合理的な見積もりが可能となった時点で改めて開示

現在、全世界的に都市封鎖などで経済活動が滞り、投資や消費が手控えられている状況が続いていることから、第2四半期については深刻な景気後退に陥ると見えています。当社関連市場についても、消費マインドの減退や販売活動の制限が全世界に広がるため、その影響は第1四半期よりも大きくなる懸念されます。

目下、世界各国の政府や中央銀行が、経済を回復軌道に戻すべく、様々な施策を矢継ぎ早に打ち出しています。しかしながら、問題の根源である新型コロナウイルスは、落ち着きをみせている地域もあるものの、いまや全世界に広がっており、収束の時期を見通すことができません。このような状況下、現時点では残り9か月間の業績を見積もることは極めて困難であることから、合理的な見積もりが可能となった時点で年間の業績見通しを改めて開示します。

オフィス（複合機）

Canon

- 1Qは多くの企業が閉鎖され、販売台数・サービス収入ともに減少
- オフィス業務が引き続き制限され、2Qはさらなる減少が見込まれる

(億円)

	1Q			年間			
	2020年 実績	2019年 実績	対前年	2020年 最新見通し	2019年 実績	2020年 前回見通し	前回見通し 対前年
複合機	1,437	1,581	-9.1%	-	6,456	6,587	+2.0%
LP	1,414	1,620	-12.8%	-	6,283	6,033	-4.0%
その他	1,125	1,189	-5.3%	-	4,782	4,750	-0.7%
売上高計	3,976	4,390	-9.4%	-	17,521	17,370	-0.9%
営業利益	459	446	+2.9%	-	1,650	1,892	+14.7%
%	11.6%	10.2%		-	9.4%	10.9%	

※従来、産業機器その他に含めて開示していた一部のビジネスを、オフィス「その他」に含めており、前年実績及び前回見通しも避けて組替えています。

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2020年 1Q実績
複合機	-7.3%
LP	-12.6%
その他	-3.7%
合計	-8.3%

■ 台数伸び率

	2020年 1Q実績
複合機	-14%
モノクロ	-14%
カラー	-13%
合計	-14%



『imageRUNNER ADVANCE DX』

複合機は、オフィス業務効率化のニーズの高まりにより高機能機の需要が増え、市場は底堅く推移すると見ていましたが、今年は新型コロナウイルスの拡大により、マイナス成長となる見込みです。

当社の第1四半期は、まず中国の工場が春節後操業停止となり、生産の遅延が発生しましたが、再稼働後は生産量を徐々に引き上げて現在はほぼ通常の状態に回復しています。しかしながら中国では2月から、さらに世界各地で3月から閉鎖される企業が増えると、営業活動が十分に行えず本体の販売台数が大きく減少し、また、在宅勤務によりオフィスでのプリントボリュームが減り、サービス収入も減少しました。

オフィスでの業務の制限は現在も継続しており、第2四半期はさらに大きな影響を受けることが予想されます。

こうした厳しい状況にはありますが、販売を伸ばしているプロダクション機『imagePRESS C165』に加え、また2月に発売したオフィス向けの新製品『imageRUNNER ADV DX』の拡販を図ることで、収束後は早期の挽回を目指します。

オフィス（レーザープリンター）

Canon

- 1Qは、主に製品の供給不足により販売台数は大幅減
- 2Q以降も、景気低迷に伴い中高速機の需要は減少の見込み

(億円)

	1Q			年間			
	2020年 実績	2019年 実績	対前年	2020年 最新見通し	2019年 実績	2020年 前回見通し	前回見通し 対前年
複合機	1,437	1,581	-9.1%	-	6,456	6,587	+2.0%
LP	1,414	1,620	-12.8%	-	6,283	6,033	-4.0%
その他	1,125	1,189	-5.3%	-	4,782	4,750	-0.7%
売上高計	3,976	4,390	-9.4%	-	17,521	17,370	-0.9%
営業利益	459	446	+2.9%	-	1,650	1,892	+14.7%
%	11.6%	10.2%		-	9.4%	10.9%	

※従来、産業機器その他に含めて開示していた一部のビジネスを、オフィス「その他」に含めており、前年実績及び前回見通しも避けて組替えています。

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2020年 1Q実績
複合機	-7.3%
LP	-12.6%
その他	-3.7%
合計	-8.3%

■ 台数伸び率

	2020年 1Q実績
LP	
モノクロ	-29%
カラー	-14%
合計	-27%

市場は、年初の時点では昨年からの緩やかな減少傾向が続くと見ていましたが、新型コロナウイルスの影響により世界各地で需要が更に落ちこむと想定しています。

当社の第1四半期は、生産要員の出勤率低下やサプライチェーンの問題でアジアの拠点で生産遅延が発生し、製品の供給が不足したことに加え、市況の悪化も見え始め、本体の販売台数が前年を大幅に下回りました。世界的に在宅勤務が増加傾向にあることから家庭向けのローエンドモデルの需要は伸びていますが、第2四半期以降、景気低迷に伴うオフィス向けの中高速機の需要減少が進むことが見込まれます。

こうした状況下でも、昨年発売した低温定着トナーを搭載した新製品の効果は着実に出ており、消耗品の販売安定化に寄与しています。新型コロナウイルスが収束し、プリントボリュームが回復してきた時には、その需要を確実に取り込めるよう、市場の動向を注視していきます。

オフィス（その他）

Canon

- 1Qの新型コロナウイルス影響は限定的
- 展示会の延期や営業活動の停滞により、2Q以降の業績は厳しく

(億円)

	1Q			年間			
	2020年 実績	2019年 実績	対前年	2020年 最新見通し	2019年 実績	2020年 前回見通し	前回見通し 対前年
複合機	1,437	1,581	-9.1%	-	6,456	6,587	+2.0%
LP	1,414	1,620	-12.8%	-	6,283	6,033	-4.0%
その他	1,125	1,189	-5.3%	-	4,782	4,750	-0.7%
売上高計	3,976	4,390	-9.4%	-	17,521	17,370	-0.9%
営業利益	459	446	+2.9%	-	1,650	1,892	+14.7%
%	11.6%	10.2%		-	9.4%	10.9%	

※従来、産業機器その他に含めて開示していた一部のビジネスを、オフィス「その他」に含めており、前年実績及び前回見通しも選及して組替えています。

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2020年 1Q実績
複合機	-7.3%
LP	-12.6%
その他	-3.7%
合計	-8.3%



当社の第1四半期は、売上に占める欧米の割合がアジアに比べて高いことから新型コロナウイルスの影響は限定的であり、また、グラフィックアーツ向けの新製品の販売が好調であったことから、売上の減少を最小限に抑えることができました。

しかしながら、3月以降欧米においても都市封鎖による影響が徐々に大きくなってきており、顧客先での機器の設置や商談を延期せざるを得ない状況が続いています。また、予定されていた大規模展示会の延期や中止がすでに決まっており、新規の顧客へのコンタクトが制限され、受注活動が停滞しています。大型の印刷機器は商談から機器の納入まで時間を要することや、経済活動が制約される中ではプリントボリュームが減少することから、成長の続くデジタル商業印刷機においても、収束後しばらくは厳しい状況が継続すると予想されます。

イメージングシステム（カメラ）

Canon

- 1Qは、市場の縮小と新型コロナウイルスの影響により、減収
- フルサイズミラーレス『EOS R5』の開発を発表。プロ・ハイアマ向けモデルに一層注力し、需要を喚起

(億円)

	1Q			年間			
	2020年 実績	2019年 実績	対前年	2020年 最新見通し	2019年 実績	2020年 前回見通し	前回見通し 対前年
カメラ	714	979	-27.0%	-	4,668	4,345	-6.9%
インクジェット	687	657	+4.6%	-	2,881	2,924	+1.5%
その他	116	127	-9.2%	-	525	601	+14.5%
売上高計	1,517	1,763	-13.9%	-	8,074	7,870	-2.5%
営業利益	9	47	-80.6%	-	482	537	+11.5%
%	0.6%	2.7%		-	6.0%	6.8%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2020年 1Q実績
カメラ	-24.8%
インクジェット	+7.3%
合計	-11.6%

■ 台数伸び率 (単位:万台)

	2020年1Q実績	
	台数	伸び率
レンズ交換式	61	-28%
コンパクト	40	-21%



フルサイズミラーレス
『EOS R5』

10-1

当社の第1四半期は、カメラ市場の縮小が継続する中、新型コロナウイルスの影響でサプライチェーンに問題が生じ、製品の供給不足が発生したことで、大きく減収となりました。

今後は、サプライヤーの稼働状況を踏まえた機動的な部品調達を実施するとともに、機種ごとに生産の優先順位を明確にし、売上影響を最小限にとどめられるよう徹底していきます。

こうした供給への影響に加えて、レンズ交換式カメラの販売についても、大きな影響を受けています。ライフイベントの中止や延期が相次ぎ、カメラを使う機会は減っており、また、嗜好品であるカメラの需要は、世界経済の混乱が収束した後も回復には時間がかかると想定されるため、2020年の市場は2019年よりも減少率は拡大すると見込まれます。

厳しい事業環境ではあるものの、当社は中長期的に収益性を維持していくために、プロやハイアマユーザー向けモデルに注力する戦略を着実に推し進めていきます。

イメージングシステム (カメラ)

Canon

- 1Qは、市場の縮小と新型コロナウイルスの影響により、減収
- フルサイズミラーレス『EOS R5』の開発を発表。プロ・ハイアマ向けモデルに一層注力し、需要を喚起

(億円)

	1Q			年間			
	2020年 実績	2019年 実績	対前年	2020年 最新見通し	2019年 実績	2020年 前回見通し	前回見通し 対前年
カメラ	714	979	-27.0%	-	4,668	4,345	-6.9%
インクジェット	687	657	+4.6%	-	2,881	2,924	+1.5%
その他	116	127	-9.2%	-	525	601	+14.5%
売上高計	1,517	1,763	-13.9%	-	8,074	7,870	-2.5%
営業利益	9	47	-80.6%	-	482	537	+11.5%
%	0.6%	2.7%		-	6.0%	6.8%	

- 対前年売上伸び率(現地通貨)
- 台数伸び率 (単位:万台)

	2020年 1Q実績		2020年1Q実績	
			台数	伸び率
カメラ	-24.8%	レンズ交換式	61	-28%
インクジェット	+7.3%	コンパクト	40	-21%
合計	-11.6%			



フルサイズミラーレス
『EOS R5』

10-2

当社はフルサイズミラーレスカメラの新製品として、この第1四半期に『EOS R5』の開発を発表しました。『EOS R5』は、圧倒的な機能の高さにより、発表当初から高い評価を多数受けています。レンズ交換式カメラでの8K動画撮影に加え、従来、レンズに搭載していた手振れ補正機構をカメラ内にも搭載し、双方を協調制御することで、更に高性能な手振れ補正性能を目指しています。静止画・動画ユーザー全てに、革命的な撮影体験を提供する強力な新製品です。

さらに、フルサイズミラーレスに対応した専用レンズを今年新たに9本投入し、合計で19本にまでラインアップを拡充していきます。これまで十分にカバーできていなかった普及価格帯にも製品を投入し、ユーザーのレンズ選択の幅を大きく広げることで、カメラ本体の販売にもつなげ、フルサイズミラーレスの需要を喚起していきます。

コンパクトカメラについても、新型コロナウイルスの影響を受け、2020年の市場の縮小スピードが加速する中でも、当社は、採算性の高いGシリーズの販売に注力し、収益性を高めていきます。

イメージングシステム（インクジェット）

Canon

- 1Qは、在宅勤務などによるホーム印刷需要を受け、増収
- 2020年は大容量インクモデルのラインアップ拡充と経費効率化に注力

(億円)

	1Q			年間			
	2020年 実績	2019年 実績	対前年	2020年 最新見通し	2019年 実績	2020年 前回見通し	前回見通し 対前年
カメラ	714	979	-27.0%	-	4,668	4,345	-6.9%
インクジェット	687	657	+4.6%	-	2,881	2,924	+1.5%
その他	116	127	-9.2%	-	525	601	+14.5%
売上高計	1,517	1,763	-13.9%	-	8,074	7,870	-2.5%
営業利益	9	47	-80.6%	-	482	537	+11.5%
%	0.6%	2.7%		-	6.0%	6.8%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2020年 1Q実績
カメラ	-24.8%
インクジェット	+7.3%
合計	-11.6%

■ 台数伸び率

	2020年 1Q実績
インクジェット	+3%



大容量インクモデル
『G6030』

11

第1四半期は、在宅勤務や在宅学習の機会の増加が、ホーム印刷需要を喚起したことで、当社の販売台数は伸長しました。さらに、製品の供給不安を背景に販売店が購入を前倒したこともあり、売上は対前年増収となりました。

2020年の市場は、先進国の縮小傾向に加え、回復を期待していた新興国の景気も、新型コロナウイルスの影響を受け減速見込みであることから、全体で減少する見通しです。

こうした厳しい事業環境の中でも当社は、大容量インクモデルのラインアップを拡充し、販売を伸ばすとともに、開発の選択と集中や販売経費の効率化を徹底することで、収益性も高めていきます。

- 新型コロナウイルスの影響により、多くの事業活動が制限される
- 当社もその影響を受けるが、将来を見据え、商品力や販売体制を強化

(億円)

	1Q			年間			
	2020年 実績	2019年 実績	対前年	2020年 最新見通し	2019年 実績	2020年 前回見通し	前回見通し 対前年
売上高計	1,061	1,094	-3.0%	-	4,385	4,870	+11.1%
営業利益	40	67	-40.5%	-	267	390	+45.8%
%	3.8%	6.1%		-	6.1%	8.0%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2020年 1Q実績
合計	-1.5%



新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、肺炎等の検査用の機器が一部増加しているものの、医療機関への立ち入りが制限され、さらには学会および展示会が中止されるなど、事業に関わる多くの活動が影響を受けています。

当社も、X線や、そのキーコンポーネントは増えていますが、欧米を中心に3月に入って外出規制が強化されたことにより、主力である大型機などの据え付けが延期され、顧客との商談も停滞しています。本来なら売上の追い込みをかける時期にこうした影響が出たことにより、当四半期は対前年でわずかに減収となりました。

引き続き多くの事業活動が制限されることが見込まれるため、その期間の受注停滞影響を年内で全てカバーすることは困難なものの、市場は中長期的に成長する見込みであることから、将来を見据え、商品力の強化と併せて、国内・海外ともに販売体制も強化していきます。

- 渡航制限の中でも、半導体露光装置は現地法人が設置に対応
- FPD露光装置は、設置作業の長期化により年間台数は減少見込み

(億円)

	1Q			年間			
	2020年 実績	2019年 実績	対前年	2020年 最新見通し	2019年 実績	2020年 前回見通し	前回見通し 対前年
露光装置	209	390	-46.3%	-	1,572	1,801	+14.6%
その他	1,262	1,241	+1.7%	-	5,312	6,059	+14.1%
売上高計	1,471	1,631	-9.8%	-	6,884	7,860	+14.2%
営業利益	38	58	-34.8%	-	194	439	+126.4%
%	2.6%	3.5%		-	2.8%	5.6%	

※従来、産業機器その他に含めて開示していた一部のビジネスを、オフィス「その他」に含めており、前年実績及び前回見通しも避けて組替えています。

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2020年 1Q実績
露光装置	-46.3%
その他	+2.7%
合計	-9.0%

■ 露光装置台数 (単位：台)

	2020年 1Q実績	2019年 1Q実績
半導体	21	14
FPD	2	15

半導体露光装置の市場は、新型コロナウイルスの影響により、最終製品の需要減少が懸念されるなど一部リスク含みではあるものの、センサや通信系デバイスなどへの投資は引き続き堅調に推移する見込みです。

当社も、新型コロナウイルスの拡大によって顧客先への渡航が制限される状況が続いていますが、日本からのサポートを受けた現地法人が設置にあたることで、第1四半期の販売台数は、前年を上回る21台となりました。年間につきましても、下期にかけて回復基調にある装置需要に対応し、1台でも多くの装置の設置を行えるように準備を進めていきます。

フラットパネルディスプレイ露光装置は、パネルメーカーが集中する地域への移動が制限され、顧客先での設置に時間を要したことにより、第1四半期の販売台数は前年を下回りました。収束後は挽回を図っていきますが、年内にすべての設置を完了することは難しく、年間の販売台数は、前回見通しからは減少する見込みです。

産業機器その他 (その他)

Canon

- 有機EL蒸着装置も設置の後ろ倒しを余儀なくされるも、設置作業の再開に向け準備を進め、影響を最小限に留める
- ネットワークカメラは、収束を見据えラインアップの強化を計画通り進める

(億円)

	1Q			年間			
	2020年 実績	2019年 実績	対前年	2020年 最新見通し	2019年 実績	2020年 前回見通し	前回見通し 対前年
露光装置	209	390	-46.3%	-	1,572	1,801	+14.6%
その他	1,262	1,241	+1.7%	-	5,312	6,059	+14.1%
売上高計	1,471	1,631	-9.8%	-	6,884	7,860	+14.2%
営業利益	38	58	-34.8%	-	194	439	+126.4%
%	2.6%	3.5%		-	2.8%	5.6%	

※従来、産業機器その他に含めて開示していた一部のビジネスを、オフィス「その他」に含めており、前年実績及び前回見通しも選別して組替えています。

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2020年 1Q実績
露光装置	-46.3%
その他	+2.7%
合計	-9.0%



ネットワークカメラ
『VB-R13VE (H2)』



ネットワークカメラ
『VB-H761LVE (H2)』

14

有機EL蒸着装置についても、需要は有機ELパネルを搭載したスマートフォンの機種数拡大を背景に高い水準が続き、第1四半期は増収となったものの、顧客先への渡航ができない状況が続いており、設置の後ろ倒しを余儀なくされています。今後、渡航できる環境がそろう次第、迅速に設置作業を再開できるよう要員の準備を進め、年間の影響を最小限に留めます。

ネットワークカメラ市場は、防犯・防災への意識の高まりを背景に高い成長が続くと見ていたものの、この新型コロナウイルスの影響により一時的に成長が鈍化傾向にあります。

当社についても、主力地域である欧州や米州での都市封鎖や外出制限措置により、顧客との商談が停滞し、カメラの設置が先送りされています。第1四半期は、政府案件などの大型商談を獲得し、対前年増収を確保したものの、第2四半期以降については、事業活動が大幅に制限されることが見込まれます。これらの影響の規模は計りかねますが、ネットワークカメラは、人々の安心安全な暮らしを支える社会インフラの一つであるため、収束を見据えて、ラインアップ強化を計画通り進め、顧客のニーズに応えていきます。

在庫の状況

Canon

- イメージングシステムは部品の納入状況を考慮した生産を行っていく
- 産業機器その他は、顧客先での設置作業の制限を受け在庫が増加

(金額：億円)

		2019年				2020年
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
オフィス	金額	2,155	2,061	2,013	1,919	1,949
	日数	43	43	42	40	42
イメージングシステム	金額	1,562	1,516	1,569	1,279	1,301
	日数	62	73	73	55	61
メディカルシステム	金額	938	930	923	975	975
	日数	75	79	77	79	84
産業機器その他	金額	1,854	1,804	1,838	1,675	1,781
	日数	105	112	114	102	112
合計	金額	6,509	6,311	6,343	5,848	6,006
	日数	62	65	65	59	63

※従来、産業機器その他に含めて開示していた一部のビジネスを、オフィスに含めており、前年実績も遡及して組替えています。

15

3月末の在庫状況は、回転日数が63日となり、昨年末から増加しました。

イメージングシステムでは、カメラが、サプライチェーンの問題から一部の部品調達が難航し、効率的な生産を行えなかったことから工場在庫が増加しました。今後は、部品の納入状況を考慮し、より柔軟に生産の調整を行っていくことで、適正化を図っていきます。

産業機器は、需要の増加に対応し在庫を積み増していましたが、新型コロナウイルスの影響を受け、顧客先での設置に時間を要したことにより、3月末では増加しました。収束後は速やかに設置できるよう、着実に準備を進めています。

第2四半期以降については、より深刻な販売活動の制限や消費マインドの減退が懸念されることを踏まえ、刻一刻と変わる販売の状況を迅速に生産計画に反映し、徹底した在庫管理を行っていきます。

キャッシュフロー(1Q)

Canon

- 1Q減益の中、運転資本の改善と設備投資抑制でキャッシュを創出
- キャッシュフロー最優先の考え方のもと、不測の事態に備える

(億円)	2020年 1Q実績	2019年 1Q実績	対前年
営業活動によるキャッシュフロー	633	609	+24
投資活動によるキャッシュフロー	-436	-517	+81
フリーキャッシュフロー	197	92	+105
財務活動によるキャッシュフロー	136	-870	+1,006
為替変動影響	-62	-17	-45
現預金の純増減額	271	-795	+1,066
現預金の期末残高	4,399	4,411	
手元回転月数(※)	1.5	1.4	
設備投資	300	461	
償却費	538	588	

(※) 2020年1Q、2019年1Qともに直近6か月の売上高を使用

16

第1四半期は対前年で減益となる中でも、運転資本の改善や設備投資を抑えたことで、フリーキャッシュフローは前年同期を上回る水準となりました。その結果、手元資金は4,399億円と、売上の1.5か月分を確保し、足元の流動性に問題はありません。

しかしながら今後、外部環境がさらに悪化することを想定し、当社は、聖域を設けない徹底した経費の削減や設備投資の抑制、在庫削減により資金を捻出し、キャッシュフローを最優先に考え、不測の事態に備えていきます。

新型コロナウイルスの影響により、世界経済は大恐慌以来とも言われる深刻な景気後退局面を迎えており、当社につきましても、第2四半期以降は非常に厳しい経営環境が待ち受けていると認識しています。

2020年は正念場の1年であると位置付け、グループ全社員の力を結集し、この難局を乗り越えていきます。

サステナビリティへの取り組み 共生の実現に向けた取り組みの進展

Canon

■ 3つの重点課題とその事例

製品を通じた新型コロナウイルス感染拡大 早期収束への貢献（メディカル事業）

- ✓ X線CT診断装置の提供
- ✓ 遺伝子検査システムの開発



**新たな価値創造・
社会課題の解決**
医療・監視、産業ロボットなど、
イノベーションを通じて課題解決に貢献

世界的議論が進む「パリ協定を上回る 新たなCO2削減目標」への挑戦

- ✓ 省エネ製品の開発（EnergyStarアワード2020受賞）
- ✓ 清原工業団地（宇都宮地区）における
異業種連携による次世代型省エネの推進



**地球環境の
保護・保全**
製品ライフサイクル全体を通して、
地球環境への影響を軽減

共生の実現

人と社会への配慮

人権、労働、社会貢献、製品責任、サプライチェーン、ダイバーシティ

健康確保および感染拡大の防止に向けて 人と社会に配慮する様々な施策を実行

- ✓ 本社および一部事業所の臨時休業（不要不急の業務の停止）
- ✓ リモートワークの推進
- ✓ 社内外イベントの休止

サステナビリティレポート2020（共生の実現に向けた統合報告書）発行

- ✓ 財務・非財務（ESG）情報の統合的開示により、
キヤノンにおける価値創造の考え方とその成果を収載
- ✓ グローバルな外部有識者とのダイアログ



17-1

当社は企業理念である「共生」の実現に向け、3つの重点課題を掲げ、今年も様々な活動を行っております。

「新たな価値創造と社会課題の解決」では、新型コロナウイルスの早期収束に向けて、武漢市にCT装置の寄付を行いました。また、長崎大学と共に遺伝子検査システムの開発を進め、行政検査としての実施が可能となりました。検査結果を得るまで最短40分と、従来の検査法に比べて迅速な検査を実現し、臨床現場や空港などの防疫・水際対策での実用化が期待されます。

「人と社会への配慮」では、新型コロナウイルス感染拡大を受け、従業員とその家族や近隣住民、取引先の皆様の健康確保と感染防止に向けて、本社および一部事業所の臨時休業や在宅勤務の推進など、様々な施策を実行しています。

サステナビリティへの取り組み 共生の実現に向けた取り組みの進展

Canon

■ 3つの重点課題とその事例

製品を通じた新型コロナウイルス感染拡大 早期収束への貢献（メディカル事業）

- ✓ X線CT診断装置の提供
- ✓ 遺伝子検査システムの開発



**新たな価値創造・
社会課題の解決**
医療・監視、産業ロボットなど、
イノベーションを通じて課題解決に貢献

世界的議論が進む「パリ協定を上回る 新たなCO2削減目標」への挑戦

- ✓ 省エネ製品の開発（EnergyStarアワード2020受賞）
- ✓ 清原工業団地（宇都宮地区）における
異業種連携による次世代型省エネの推進



**地球環境の
保護・保全**
製品ライフサイクル全体を通して、
地球環境への影響を軽減

共生の実現

人と社会への配慮

人権、労働、社会貢献、製品責任、サプライチェーン、ダイバーシティ

健康確保および感染拡大の防止に向けて 人と社会に配慮する様々な施策を実行

- ✓ 本社および一部事業所の臨時休業（不要不急の業務の停止）
- ✓ リモートワークの推進
- ✓ 社内外イベントの休止

サステナビリティレポート2020（共生の実現に向けた統合報告書）発行

- ✓ 財務・非財務（ESG）情報の統合的開示により、
キヤノンにおける価値創造の考え方とその成果を収載
- ✓ グローバルな外部有識者とのダイアログ



17-2

「地球環境の保護、保全」では、製品ライフサイクル全体でCO2削減を進めるべく、製品の省エネだけでなく、生産拠点において、隣接する他社との連携によるエネルギーの相互活用など、キヤノン単独では難しい事業所の更なる省エネにも取り組んでいます。

当社では、これら活動をまとめたサステナビリティレポートを毎年発行していますが、先日今年のレポートをホームページに掲載しました。作成にあたっては、外部の有識者と議論しながら、またステークホルダーである投資家の皆様からも意見を頂戴し、それを反映しています。是非ご覧ください。

參考資料

■ハード/ノンハード別 対前年売上伸び率

		2020年		2019年	
		1Q 実績	年間 見通し	1Q 実績	年間 実績
複合機					
円貨	ハード	-18%	-	-3%	-7%
	ノンハード	-2%	-	-4%	-5%
LC	ハード	-17%	-	-2%	-4%
	ノンハード	0%	-	-2%	-2%
LP					
円貨	ハード	-21%	-	-2%	-5%
	ノンハード	-7%	-	-12%	-15%
LC	ハード	-21%	-	-2%	-3%
	ノンハード	-7%	-	-12%	-13%
インクジェット					
円貨	ハード	+7%	-	-6%	-9%
	ノンハード	+4%	-	-10%	-10%
LC	ハード	+10%	-	-4%	-7%
	ノンハード	+6%	-	-8%	-8%

■ カラー比率

		2020年		2019年	
		1Q 実績	年間 見通し	1Q 実績	年間 実績
複合機	売上高	60%	-	59%	59%
	台数	58%	-	58%	59%
LP	売上高	53%	-	52%	52%
	台数	21%	-	18%	20%

■ 複合機 モノクロ/カラー別 対前年売上伸び率

		2020年		2019年	
		1Q 実績	年間 見通し	1Q 実績	年間 実績
円貨	モノクロ	-10%	-	-5%	-6%
	カラー	-8%	-	-2%	-5%
LC	モノクロ	-9%	-	-4%	-4%
	カラー	-7%	-	-1%	-2%

■ レンズ交換式カメラ比率

	2020年		2019年	
	1Q 実績	年間 見通し	1Q 実績	年間 実績
金額ベース	83%	-	84%	85%
台数ベース	60%	-	63%	62%

※金額ベースには交換レンズも含む

■ 半導体露光装置台数 光源別内訳

(単位：台)

	2020年		2019年	
	1Q 実績	年間 見通し	1Q 実績	年間 実績
KrF	3	-	5	22
i線	18	-	9	62
合計	21	-	14	84